

〔優秀賞〕

◇ 自分らしさを生かして

植野小学校 6年 稲垣 圭悟

ぼくの父は、学校の先生をしています。専門は家庭科です。父は、一番興味があったのが家庭科だったので、家庭科の先生になったそうです。でも、先生になったとき、男性の家庭科の先生もいるんだ！と周りから驚かれたそうです。父は性別で選んだわけではなく、自分の興味で仕事を選んだだけなのに、そのように周りが反応することに驚いたそうです。

父の学校の子どもたちは、家庭科の先生が男性だということに特別驚くことはあまりないと聞きました。驚いているのは大人だったそうです。もしかすると、大人が勝手なイメージをもち、発言していることで、子どもにまでそのイメージが植えつけられてしまい、「男だから」「女だから」という差別が次の世代にも影響してしまうのかもしれません。世の中の職業に目を向けたときにも、警察官や消防士だと男性、幼稚園、保育園の先生や看護師だと女性というように、男女で割合がちがうと感じることは多いです。社会がそのようなふんい気をつくっていることも理由の一つかもしれません。父のように、やりたいことで仕事に対する思いがあったら、性別は関係ないのになと思います。誰がどんな仕事をしていても性別で判断することのない社会、いろいろな人がいろいろな職業につき、協力し合える社会になってほしいです。ぼくも将来、性別にとらわれることなく自分の好きなことを仕事にして、社会に役立ちたいです。

昔の日本は、男性が外に出て仕事をして、女性は家の仕事をしていることが当たり前だ

ったそうです。選挙も男性だけができた時代もあったと勉強しました。今はすごいぶん変わってきました。社会をつくっていくのは性別に関係なく、一人一人の人間なのだと考えられています。昔と比べると、現在の日本は男性も女性もみんな平等で明るい社会になっていると思います。ですが、世界に目を向けると、現在、日本の男女共同参画は世界的に見て遅れている状況だとニュースで知りました。たしかに、父が先生になってから約20年経った今でも、家庭科の先生が男性だということに驚かれるることはまだまだ多いようです。

ぼくの家は、「男だから」「女だから」ではなく、父も母も働きに出ているし家事もします。性別に関係なくいろいろなことを協力して生活しています。ぼくは、大切なのは性別に関する差別や偏見などをなくし、みんなで協力し合うことだと思います。相手を知るときに性別にとらわれないことが必要です。そうすれば一人の人間としてお互いのことを理解することができ、仲良くしたり、協力したりできるはずです。

性別にとらわれず、一人一人の得意なことやいいところを生かせる社会をつくり、みんなが気持ちよく過ごせるようになってほしいです。ぼくはそんな社会をめざし、自分の未来を自分で切り拓いていきたいと思います。